





第二十九回 岡田神社書道展

◆会 期 令和5年7月21日(金)～31日(月) ◆総出品点数 510点

|           |          |          |          |          |
|-----------|----------|----------|----------|----------|
| 岡田宮賞      |          | 小2 谷口 結彩 | 小4 山下 真弘 | 小2 川内 望愛 |
| 小3 内藤優莉奈  | 小4 下川 桐依 | 小5 井上 杏  | 小3 前田 暖乃 | 小2 榎本 慧  |
| 小5 中田 侑輝  | 小6 松本 和  | 小5 塚本 椋大 | 小4 榎本 椋大 | 小3 榎本 椋大 |
| 小6 小田 倅温  | 小5 田村 一華 | 小4 高橋 勇人 | 小3 榎本 椋大 | 小2 榎本 椋大 |
| 中1 土器屋陽菜乃 | 小6 音地 怜香 | 中1 長谷川心虹 | 中1 長谷川心虹 | 中1 長谷川心虹 |
| 中2 早川 結衣  | 中3 富田 陽  | 中1 岩熊 里歩 | 中1 岩熊 里歩 | 中1 岩熊 里歩 |
| 中3 山田真弓野  | 中3 村井 翼  | 中1 藤井陽奈子 | 中1 藤井陽奈子 | 中1 藤井陽奈子 |
| 総代会長賞     |          | 小2 川本さざれ | 小4 諸富 葵  | 小2 諸富 葵  |
| 小3 白江 堇   | 小4 野口 瑤  | 小5 伊藤 百  | 小3 伊藤 百  | 小2 伊藤 百  |
| 小4 土器屋宏斗  | 小5 夏山 智里 | 小4 平野 心美 | 小3 平野 心美 | 小2 平野 心美 |
| 小5 押方 咲空  | 小6 楠田 彩希 | 小4 中鉢 結香 | 小3 中鉢 結香 | 小2 中鉢 結香 |
| 小6 服部 紋乃  | 小5 林 詩葉  | 小4 下川 喩依 | 小3 下川 喩依 | 小2 下川 喩依 |
| 中1 武田 美里  | 中2 藤井 結月 | 中1 古賀 彩香 | 中1 古賀 彩香 | 中1 古賀 彩香 |
| 中2 渡邊 智子  | 中3 尾家幸希音 | 中2 矢野 七奈 | 中2 矢野 七奈 | 中2 矢野 七奈 |
| 中3 武田 莉歩  | 中3 豊島 早希 | 中2 阿部 瑛  | 中2 阿部 瑛  | 中2 阿部 瑛  |
| 特選        |          | 小6 結城はな  | 小4 阿部 瑛  | 小2 阿部 瑛  |
| 小1 関 維    | 小2 古賀そら夏 | 小3 五代 和奏 | 小3 五代 和奏 | 小3 五代 和奏 |
| 小2 小田 紗綾  | 小3 結城みず希 | 小4 西山 瑛亮 | 小4 西山 瑛亮 | 小4 西山 瑛亮 |
| 小3 恵良 紬   | 小4 深町 椎菜 | 中3 吉良 和紗 | 中3 吉良 和紗 | 中3 吉良 和紗 |
| 小4 矢野 愛華  | 小5 河野 俊子 | 中3 下田 翔悟 | 中3 下田 翔悟 | 中3 下田 翔悟 |
| 小5 山口 恵奈  | 小6 椿原 湊  | 中3 森永 千陽 | 中3 森永 千陽 | 中3 森永 千陽 |
| 小6 枳殻 奈緒  | 小7 西 つむぎ | 中3 山本 夏凜 | 中3 山本 夏凜 | 中3 山本 夏凜 |
| 小7 東郷 理桜  | 小8 山本 夏凜 | 小9 山本 夏凜 | 小9 山本 夏凜 | 小9 山本 夏凜 |

公式SNSアカウントにて日々の様子をお知らせしています。

フォロー！イイネ！おまちしております

SNSのご案内

Instagram

LINE

Facebook

X

有川写真館 岡田神社STUDIO

北九州市八幡西区岡田町1-46 TEL 093-621-2080

■営業時間 10:00～17:00 ■定休日 水曜日

撮影衣装・着付・ヘアメイク無料

¥38,500~ (四切2枚・台紙付)

七五三お出かけレンタル衣装

¥0~ (お一人様)

新作ブランド衣装など多数取り揃えております

他にも二の鳥居の傍に一对の灯明台があり、文政八年（一八二五）三月、森本喜三郎義近によって奉納されている。では、森本喜三郎とはどのような人物であったのか。

江戸時代、岡田宮宮司が兼務した社の一つに王子社（現・一宮神社）がある。現在、一宮神社の二の鳥居には「王子社」の額が掲げられ、柱には「大宮司従五位下波多野駿河守藤原朝臣直縄」、「天保十五年甲辰正月吉日森本喜三郎義熙」と刻まれている。狛犬と同じく波多野直縄が宮司の時であるが、森本喜三郎の



熊手の住吉屋森本氏

現在、岡田宮の拝殿横に逆立ちで玉を押さえた狛犬がある。元々は二基一对であったと思われるが、現在は一基のみで、台座正面に「献」、左側に「森本喜三郎義近」、右側に「波多野駿河守直縄」と刻まれている。

おかのがたきこう 岡県紀行 16

諱（実名）は義近と、天保十五年（一八四四）の義熙で異なっており、別人と推測される。

森本氏の寄進に関することは岡田宮の古文書にも記されている。文政七年五月、湊天満宮神社再建の寄進者の一人として「住吉屋 森本喜三郎」の名がある。湊天満宮は現・八幡西区菅原町にあったが、現在は岡田宮の境内社となっている。他にも、弘化二年（一八四五）三月、森本篤兵衛（篤平）の亡父喜三郎が大蔵宮の鳥居再建を念願していたと記されている。大蔵宮は王子社と同じく現在の一宮神社である。

また前号で紹介した、岡田宮鳥居前にあった遠賀郡本城触・弘川の「現穀米御備御固蔵」は元々森本喜三郎が建てたもので、喜三郎が蔵番も務めた。森本喜三郎は二触において裕福であり、「駅内近村諸品質物出入之渡世」すなわち黒崎宿とその周辺の村々の人々を相手に質屋業を営んでいた。

文久二年（一八六二）に筆写された福岡藩黒田家の分限帳によると、遠賀郡熊手の森本篤平（篤兵衛）は二代限り一人扶持を福岡藩から与えられていた。

森本氏は住吉屋という屋号を持ち、質屋業を営んでいた。さらに慶応三年（一八六七）頃、篤兵衛の兄喜三郎は大庄屋格・熊手村組頭で

あった。新たな資史料の発見により、江戸時代の黒崎宿を生きた人物・家の詳細が明らかになることを期待したい。

（北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員 守友 隆）

神社なぜ問答 (その76)

諏訪神社と御祭神について教えてください。

諏訪神社（諏訪社）は、長野県に鎮座する信州一宮の諏訪大社を総本社とする神社で、建御名方神（たけみなかたのかみ）を御祭神とし、妃神である八坂刀売神（やさかとめのかみ）を合わせ祀る場合もあります。

諏訪神社は、全国に約二千七百社（諏訪）の名を含むあり、その分布は長野県を中心として中部・北陸地方に多く見られますが、それ以外でも北は北海道から、南は鹿児島県まで、ほぼ全国的に鎮座しています。

『古事記』によると、諏訪大社の御祭神であり、国津神（くにづかみ）の大国主命（おおくにぬしのみこと）の御子神である建御名方神は、天孫降臨に際して国譲りの交渉にやってきた天津神（あまつかみ）の建御雷神（たけみかづちのかみ）と力競べをしたところ、建御雷神のあまりの靈威におそ

れ驚いて敗走し、信濃国の州羽海（すわのうみ・現在の諏訪湖）に追いつめられ、降参しました。この時、天つ神に対して国譲りをおこなうとともに、自らはこの地を出ないことを誓い、諏訪の地に奉斎されたのが諏訪大社の起源です。

総本社の諏訪大社は上社（かみしゃ）・下社（しもしゃ）からなり、さらに上社が前宮（まえみや）と本宮（ほんみや）に、下社が春宮と秋宮に分かれる二社四宮の形になっています。また、上社本宮には本殿にあたるものがなく宮山を御神体山として拝み、下社の春宮では杉の木、秋宮では樅（いちい）の木をそれぞれ御神体とするなど、祭祀の古い形態を見ることができ

ます。

祭祀の具体的内容でも、上社・下社各宮の社殿の四隅に立てられる御柱（おんばしら）と称される樅の木の柱を、申年と寅年の七年目毎に新しく曳き立てる「御柱祭」など、古くからの伝統による特殊神事が数多くあります。

中世には武田信玄が諏訪大社の社殿造営をおこなうなど、建御名方神は武勇の神として武家の崇敬を集めました。また風雨の神、鍛冶の神、農耕・狩猟・開拓の守護神といった幅広い御神格を有したため、後世、諏訪神社は信濃国のみならず各地に奉祀され、庶民からも篤く信仰されるようになりました。